特集

ガイドなし 通訳なし

国際福祉実習

他大学にはないちょっと（かなり?）ユニークな実習

インド聖隷希望の家にて

国際福祉実習とは

国際福祉実習は社会福祉学部の学生が選択で3・4年次に履修できる実習です。この実習では、国際社会に貢献できる人材養成を行うために、実際にアジアをはじめとする海外へ出かけ、その国のさまざまな社会福祉事情や文化を体験することにより、価値観の多様性や異文化を受容することを学び、国際的な視野を養うことを目指します。

実習の時期は主に夏期・冬期・春期休業中の2～8週間で、聖隷と関わりの深い施設（表1参照）の中から実習先を選びます。

実習のプログラムとその特徴

希望する学生は担当の先生と相談の上、実習計画を作成していきます。実習前には事前学習として訪れる国の地理、歴史、文化、政治状況、生活の実態、そして福祉の制度などを個人、またはグループで調べたり、その国を訪れたことのある先輩の話を聞いたりして、総合的に理解します。

実習期間中、学生は現地の実習指導者の指導を受けます。また、実習記録（日誌）をつけます。朝起きてから夜寝るまでの間自分がしたこと、そこで体験したことや感じたことを書き留めます。

実習終了後には、事後学習として実習レポートを作成し、年度末に行われる実習報告会で実習の成果を発表します。

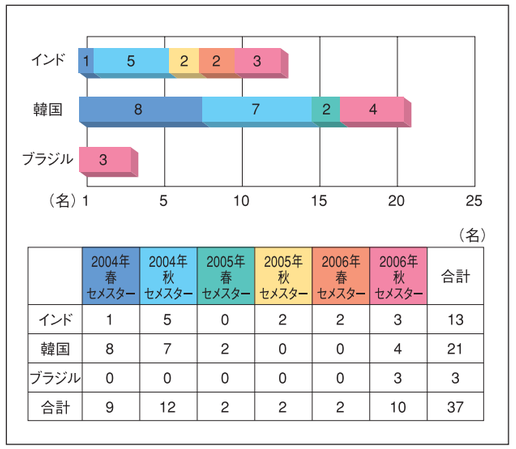
この実習は、準備された既存のプログラムに参加するのではなく、実習先・スケジュールの検討、決定からチケット手配までのすべてを、担当の先生と相談しながら学生が自分自身で行う点に特徴があります。

韓国の老人福祉施設にて

参加者に聞いてみました

2004年度から始まった国際福祉実習には合計で37名が参加しました（2006年秋セメスターまで、グラフ1参照）。2006年春・秋セメスターに参加した方にインタビューを行いました。

■グラフ1／国際福祉実習参加者数



	2004年春セメスター	2004年秋セメスター	2005年春セメスター	2005年秋セメスター	2006年春セメスター	2006年秋セメスター	合計
インド	1	5	0	2	2	3	13
韓国	8	7	2	0	0	4	21
ブラジル	0	0	0	0	0	3	3
合計	9	12	2	2	2	10	37

ブラジルの名物料理を前に

南インドを旅行中に出会った子供たちと

■表1／国際福祉実習の実習先

国名	施設名	ホームページアドレス
インド	知的障害者教育施設 聖隷希望の家	http://www.seireiashabhavan.org
韓国	児童養護施設 東明（トンミョン）児童福祉センター	http://www.dmchild.or.kr
	老人福祉施設 東明（トンミョン）老人福祉センター	http://www.dmsenior.or.kr
ブラジル	重症心身障害者施設 希望の家	http://www.kibonoie.org.br

※インド聖隷希望の家及びブラジル希望の家については聖隷歴史資料館に展示があります。

インド

【国際福祉実習に参加した理由】

・聖隷の関連の施設が海外にあると聞き、興味があった（上原里菜さん）。

・海外で福祉の仕事に就きたいと考えていたので、福祉施設を見学できる良い機会だと思った（渡辺玲香さん）。

【印象深かったこと】

・生まれてはじめて象に乗ったこと（松尾利保さん）。

・インドの人々はとても優しく、誇りを持ち、エネルギーに満ちている印象を受けた。現地を訪れ直接会って話をしてみないと本当のことはわからないと感じた（山田洋平さん）。

・聖隷希望の家を開設したアブラハムさんに出会えたこと。創設者の語る言葉には重みがあった（伊勢葉子さん）。

【実習を終えて今思うこと】

・広い土地、大きな国で自分を見つめてみることができて良かった（栗倉一覚さん）。

・後輩の皆さんには20歳前後の、就職先を決める前に是非行くことをおすすめします（渡辺玲香さん）。

・また行きたい。今すぐにでも行きたい（上原里菜さん）。

ブラジル

【国際福祉実習に参加した理由】

・国際福祉実習があることと、ブラジルに聖隷との関係の深いブラジル希望の家があることを知っていて本学に入学したから（山本春菜さん）。

・先輩が行ったことのない国へ行ってみたかった（小野菜保子さん）。

【印象深かったこと】

・乗り換えを別として25時間飛行機に乗っていた。長かった（上野早紀さん）。

・食事の量が多くて困った。満腹なのに遠慮していると思われたようだ（山本春菜さん）。

【実習を終えて今思うこと】

・ブラジルの素晴らしさをたくさんのひとに伝えたい！（小野菜保子さん）。

・期待以上だった。自分たちが初めて訪れたこともあり大変歓迎されてうれしかった（山本春菜さん）。

韓国

【国際福祉実習に参加した理由】

・日本と海外の福祉の違いを感じてみたかった（成瀬隆之さん）。

・単なる旅行だと観光地を巡り表面的なものを見るだけで終わってしまう気がした。実習として出かけたので施設を見学でき、いろいろな人に会えて様々なことを経験できた（永田彩さん）。

・友人と2人で実習に参加したので、尻込みせずいろいろなことに積極的に関わることができた。多くのことを経験することができて良かった（芳賀宣美さん）。

きたと思う（永田彩さん）。

【印象深かったこと】

・日本と韓国の福祉の違いを感じた。福祉器具などは日本より遅れているのに、利用者のことを考え本当に親身に接しており日本よりも良く感じた（芳賀宣美さん）。

・冬期休業中に参加したが非常に寒くてつらかった（成瀬隆之さん）。

【実習を終えて今思うこと】

・自分が普段狭い世界に生きていると感じた（永田彩さん）。

国際福祉実習で学んで欲しいこと

国際福祉実習はいわばオーダーメイドの実習であり、行き先を決め、自分で行動を起こし、自分で考え、自分で計画を立て、自分でチケットの手配などをすることから始まります。制度・法律も異なる国でどのような「生活の営み」がそこにあるのか。自分の肌で、身体でその国の福祉はもとより、気候や文化、価値観、習慣、生活そのものをも含めて、多くを感じてきて欲しいですね。

実習に参加したからといってその経験がすぐに役に立つわけではないかもしれません。しかし、異国での様々な出会いや経験はこれからの歩みの中で大きな宝となっていくことと思います。

実習は夏期・冬期・春期休業中に行われます。日本にいたらアルバイトや遊びで過ぎていくかもしれない日々を海外で過ごし、自分を、家族を、そして日本を外から改めて見つめ直す機会になるのではと思っています。

（山本誠社会福祉学部教授）